

■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① 雀の子を犬君が逃がしつる。
- ② 月の明かき夜、人々あまた集ひたり。
- ③ きはめて大きな竹の、節を隔ててよごとに黄金ある竹を見つれたり。
- ④ わが身ひとつは、もとの身にして。
- ⑤ この歌、人の詠めるとも聞こえず、いとめでたし。
- ⑥ 白き鳥の、嘴と脚と赤き、川のほとりに遊ぶ。
- ⑦ 行く川の流れは絶えずして、もとの水にあらず。
- ⑧ 露のごとき命なれば、いつまでとも頼まれず。
- ⑨ 待つ人は来ず、頼めし人のつらきかな。
- ⑩ 雪の降れるを見て、童べ喜び走る。
- ⑪ 罪の限り果てぬれば、かく迎ふるを。
- ⑫ 涙のこぼるるを、人に知られじとつつみけり。
- ⑬ 我こそ行かめと思へど、人の許さぬ。
- ⑭ 鶯の声、谷より聞こゆ。
- ⑮ 京には居らじ、東の方に住むべき国求めにとて行きけり。
- ⑯ いまはとて別るるが、いと悲し。
- ⑰ 玉の緒よ絶えなば絶えね、ながらへば忍ぶることの弱りもぞする。
- ⑱ 思へど甲斐なし、心ざしの深きを人は知らず。

■ 設問 (全24問)

1. 傍線部①「雀の」の「の」の用法を、次から選べ。
ア 主格 イ 連体格 ウ 同格 エ 準体格 オ 比喩
2. 傍線部②「月の」の「の」の用法を、次から選べ。
ア 主格 イ 連体格 ウ 同格 エ 準体格 オ 比喩
3. 傍線部③「大きな竹の」の「の」の用法を答えよ。また、そう判断できる根拠（後ろの文との関係）を簡潔に記せ。
4. 傍線部③「大きな竹の、節を隔ててよごとに黄金ある竹」の部分で、「の」の用法に注意して現代語訳せよ。
5. 傍線部④「わが身」の「が」の用法を、次から選べ。
ア 主格 イ 連体格 ウ 同格 エ 接続助詞
6. 傍線部⑤「人の詠める」の「の」の用法を答えよ。また、判別の根拠（直前が体言か連体形か、直後が何か）を記せ。
7. 傍線部⑥「白き鳥の」の「の」の用法を答えよ。また、この一文を現代語訳せよ。
8. 傍線部⑦「行く川の」の「の」の用法を、次から選べ。

ア 主格 イ 連体格 ウ 同格 エ 準体格 オ 比喩

9. 傍線部⑧「露のごとき」の「の」の用法を、次から選べ。

ア 主格 イ 連体格 ウ 同格 エ 準体格 オ 比喩

10. 傍線部⑧「露のごとき命」の部分で、「の」の用法に注意して現代語訳せよ。

11. 傍線部⑨「人のつらき」の「の」の用法を、次から選べ。

ア 主格 イ 連体格 ウ 同格 エ 準体格

12. 傍線部⑩「雪の降れる」の「の」の用法を答えよ。

13. 傍線部⑪「罪の限り」の「の」の用法を答えよ。

14. 傍線部⑫「涙のこぼるる」の「の」の用法を答えよ。

15. 傍線部⑬「人の許さぬ」の「の」の用法を答えよ。また、判別の根拠を記せ。

16. 傍線部⑭「鶯の声」の「の」の用法を答えよ。

17. 傍線部⑮「東の方」の「の」の用法を答えよ。

18. 傍線部⑯「別るが」の「が」について、次の各問いに答えよ。

(1) この「が」は格助詞か接続助詞か。判別の根拠（直前の語の性質）とともに答えよ。

(2) ここでの「が」の意味（逆接か単純接続か）を答えよ。

19. 傍線部⑰「玉の緒」の「の」の用法を答えよ。

20. 傍線部⑱「心ざしの深き」の「の」の用法を、次から選べ。

ア 主格 イ 連体格 ウ 同格 エ 準体格

21. 傍線部のうち、「同格」の用法であるものを①～⑱の番号ですべて挙げよ。

22. 傍線部のうち、「比喩（～のように）」の用法であるものを①～⑱の番号で挙げよ。

23. 「が」「の」が格助詞か接続助詞かを見分けるには、直前の語の何に着目すればよいか。簡潔に説明せよ。（記述）

24. 「準体格」とはどのような用法か、訳し方を含めて簡潔に説明せよ。（記述）